



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度サテライト科目」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	地域づくり戦略論		
担当教員	藤田 武弘		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 人数制限有(30名) 実施場所:秋津野ガルテン(田辺市)		
科目名(英語表記)	Strategic regional/community management		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	<p>農山村再生手法として注目を集める都市農村交流では、農作業や農村での生活体験を共有することにより「もてなしを提供する側と享受する側とが、対等・互恵の人間的な関係に立って、相互に喜びを共有する精神性(ホスピタリティの精神)」に基づく関係性を築くことが重要である。本講義では「都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成」をテーマに掲げ、①地域資源と循環型社会、②先進地の「地域づくり・人材育成」実践に学ぶ、③地域資源活用と地域の自立、④都市農村関係の変化と新しいツーリズム、⑤日本農業が当面する課題と農山村再生の戦略、の5つの視角から農山村における地域づくり戦略を考える。</p>		
授業計画	<p><視角①: 地域資源と循環型社会を考える> 【01】地域循環型社会構築の現代的意義(元和歌山大学・橋本卓爾)10月04日 13:00~14:30【02】地方都市における農工商連携の現状と課題(田辺市役所産業部)10月04日 15:00~16:30【03】グローバル化における産地再編の課題と農協の役割(JA紀南営農部)10月05日 09:00~10:30 <視角②: 先進地の「地域づくり・人材育成」実践に学ぶ> 【04】農商工連携とコミュニティビジネス((株)秋津野・木村則夫)10月25日 13:00~14:30【05】地域経営のための合意形成と組織づくり((株)秋津野・玉井常貴)10月25日 15:00~16:30【06】産官学地域連携とコーディネーターの役割(水産大学校・岸上光克)10月26日 09:00~10:30 <視角③: 地域資源活用と地域の自立を考える> 【07】中山間地域における園地流動化と耕作放棄対策(愛媛大学・板橋衛)11月15日 13:00~14:30【08】高校生レストランから学ぶ地域の人材育成(三重県多気町・岸川政之)11月15日 15:00~16:30【09】エネルギーの産地消費と地域の自立(元和歌山大学・中村太和)11月16日 09:00~10:30 <視角④: 都市農村関係の変化と新しいツーリズム> 【10】都市農村関係の変化と日本型グリーン・ツーリズム(和歌山大学・藤田武弘)01月10日 13:00~14:30【11】暮らしと心の見える交流活動による農村再生(大分県安心院町GT研究会・植田淳子)01月10日 15:00~16:30【12】森づくりと企業CSR活動(和歌山大学・大浦由美)01月11日 09:00~10:30 <視角⑤: 日本農業が当面する課題> 【13】日本農業の後継者問題を考える(独立行政法人農研機構・山本淳子)02月07日 13:00~14:30【14】和歌山県における過疎対策の現状と課題(和歌山県庁企画部過疎対策課)02月07日 15:00~16:30【15】世界の食料問題と日本農業(和歌山大学・大西敏夫)</p>		

	02月08日 09:00～10:30 <正課外:特別講義とまとめ> 【00】中山間地域の課題と再生戦略(明治大学・小田切徳美)02月28日 14:00～16:30【00】まとめとワークショップ(前出・藤田武弘)
到達目標	本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われているが、本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待している。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。各種アンケート調査等に対する協力もお願いしたい。
成績評価方法	各講義テーマ毎に提出する「リアクションペーパー」と質疑応答での平常点(@5点×15講=75点)、およびまとめの課題レポート(25点)を目安として主任講師が総合評価を行う。
教科書	毎回レジュメ・資料を配付する。
参考書	○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村－交流から協働へ－』日本経済評論社、2011年。 ○小田切徳美編『農山村再生に挑む－理論から実践まで－』岩波書店、2013年。
履修上の注意・メッセージ	地域の再生は、一朝一夕で叶うものではない。常に「現場(実態社会)が先生」という謙虚さと熱意を持って、社会人など多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土日開催(土曜日2講/日曜日1講とまとめ)というスタイルの講義以外に、オプションで関連するフィールドワーク(現地視察や農家民泊・農作業研修など)が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。
授業時間外学習	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。なお、正課期間外に「特別講義とまとめ(2015年02月28日～03月01日)」を開催する。15コマ講義のまとめとなることから、可能な限り出席してほしい。

